

【実践事例（13）】

（涌谷高等学校）

地域の災害特性や学校の防災対策に使用する備品等を学ぶ研修

年度始め（4月6日）に、教職員対象の防災研修を実施。

研修の内容

○涌谷町の過去の災害と本校が避難所になった際の対応についての説明

講師 涌谷町総務課防災交通班の方



涌谷町が、これまでどのような災害に遭ってきたか、どのような災害リスクがあるのかを、写真や地図を用いて、分かりやすく説明いただいた。

新しく赴任した教職員を含め、全教職員にとって、地域を知り、災害に備える意識の向上につながった。

また、学校がどのような場合に避難場所になるのか、学校として避難場所開設や運営にどのような協力が求められるのかという具体的な話をいただいた。

○校内フィールドワーク

講師 学校の教職員



【防災機材倉庫の確認】



【過去に体育館が避難場所になった際の説明】

校地内の巡回し、災害時や事故発生時に使用する備品等を全員で確認した。防災機材倉庫は、食糧などがどのくらい備蓄されているのか、暑さ・寒さ対策に使用するものは何かを実際に確認した。また、校内の AED のある場所を確認し、使用方法も共有した。

○学校防災マニュアルの読み合わせ

全教職員で、生徒が在校中に地震や火災、大雨による災害が発生した場合の避難誘導方法、教職員の役割を確認した。また、全教職員で確認することで、管理職や複数の教職員が不在時の対応にも生かされることを共有できた。

研修の効果

○学校防災について、生徒を迎える年度始めに、全教職員で確認できたことは、良い機会となった。今後の避難訓練等を通じ、災害等から生徒を守る対応の実効性を高めていきたい。